

令和6年2月1日

希望に満ちた春へ

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

2月3日は節分です。今年も各地、各家庭で豆まきの光景が見られることでしょう。震災等の災害鬼や感染症等の病気鬼を退治して、毎日を安全に健康に平和に過ごしていきたいものです。

古くから豆は「魔滅」と書くことができ、鬼を退治できる穀物だと信じられてきました。また、厄払いの豆は芽が出ないように煎った大豆を用いました。これは悪いことが再生しないようにとの願いが込められています。疫病や飢饉、争乱といった様々な困難な状況にあっても先人たちは知恵を出し合い、これらを打破しようと勇気を持って行動してきたに違いありません。生活を明るく、豊かにするための叡智や伝統行事にも学ぶべきことがたくさんあります。現代に生きる私たちへの励ましのエールなのかもしれません。

節分の翌日は立春です。震災や戦禍で苦しんでいる方々をはじめ、すべての人々に明るく温かな、希望に満ちた春になることを願っています。受験生にも桜が咲きますように。

令和6年2月2日

入学の希望と期待に応える

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

来年度の新入学児及び保護者の皆様に対して入学説明会を開催しました。園児たちは少し緊張気味ではありましたが、1年生や5年生との学校探検やレクに目を輝かせ、楽しそうに活動していました。

保護者の皆様は学校からの説明を真剣に聴いていました。特に初めてお子様の入学を経験される方々は、不安なことも多いことでしょう。分からない点は遠慮なく、何でも相談してください。

入学式までにお子様と通学路を一緒に歩き、安全な登下校への意識を高めてください。また、小学校生活への夢や希望、期待感を高める声かけもお願いします。

学校は自ら楽しさを見出すところでもあります。授業では各教科等のねらいの達成に向け、教材や他者との関わりの中で多くのことを学んでいきます。また、集団生活上のルールは安心安全な生活を送る上での必須事項です。状況に応じた対処の仕方等、具体的に御指導ください。

希望膨らむ入学を、万全な態勢でお待ち致しております。

令和6年2月9日

思い内であれば

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

人は一人では生きていくことはできません。人は互いに支え、支えられながら社会の中で生きています。

今日の社会では、いじめ問題をはじめとする人権問題が依然として存在し、深刻化しています。学校もひとつの社会ですので、さまざまなトラブルが起こります。その際に、他者へのちょっとした思いやりや温かい心遣いが非常に重要な意味を持ちます。胸の中の思いは見ることはできませんが、思いやりの行為は誰にでも見ることができます。そして、その行為は必ず他者の助けとなるはずで

す。たとえささやかな思いや行為であったとしても、そのことが他者に対する積極的な働きかけであれば、その人の心に響き、そのぬくもりが周囲にも波及し、よりよい生活を築く原動力になるはずで

令和6年2月13日

生きることの意味を問う

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

自死者数過去最高の報道等を見聞きする度に、生きるということの意味を日々自問自答しています。

出産直後の赤ちゃんは一人泣きますが、周りの人々はその誕生を祝福し、笑顔で喜びます。これとは逆に、臨終の際には周りの人々が別れを惜しんで悲しみの涙を流します。できることなら笑いながら天寿を全うしたいものです。

なぜ人は生きるのか、永遠の哲学的課題です。一つ言えることは、その答えを見つけるために生きるのではないのでしょうか。人生は悲喜交々、喜怒哀楽の不断の連続です。むしろ悲しみ、苦しみの方が多いのが現実です。しかし、苦境の後にはきっと幸せが顔をのぞかせてくれると信じて生きていきたいものです。明るく前向きな姿勢に、幸福が近づいてきてくれるかもしれません。

人生に思い悩む人々を、一人でも多く救済できるゲートキーパーや社会の構築が急がれます。まずは、身近にいる人に相談する、相談できる人間関係の構築が大切だと思います。

令和6年2月25日

正義について思うこと

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

残念なことに地球上の各地で紛争や軍事侵攻が勃発し、尊い命が奪われています。

歴史は繰り返すと言われますが、その通りになってほしくありません。人類は長い歴史から多くのことを学び、その教訓としての知識を得てきました。しかし、負の連鎖はいつまでも解消されません。何を教訓としてきたのか、人間の未熟さを露呈しています。

正義とは何なのか、改めて深く考える時だと思えます。自分の主義、主張が正しいと思いつい込むことへの危険性や思慮の浅さを自覚するべきです。お互いの正義をすり合わせ、調整するといった対話や、客観性、公平性、妥当性といった評価観をもっと共有すべきだと思います。

教育に携わる者としては、まずは平和に関する身近な諸問題から目の前の子どもたちと真摯に取り組むことの必要性を強く感じています。

紛争等の事態が一刻も早く終息することを祈るばかりです。また、人間の叡智が活かされることを国際社会の一員としても切に願っています。

令和6年2月26日

関心と感心を持って生きる

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

関心と感心という漢字は同音異義語です。学年度末を迎えるに当たり、この二つの言葉について考えてみました。

関心とは、そのことについて興味を持ち、また、そのことをより深く知ろうとする気持ちを持つことです。感心とは、困難なことを克服した自他の行為に、驚きの気持ちで見つめたり、すごいなと感じたりすることです。

子どもたち一人ひとり、そして、私たち大人は、この一年間でどのようなことに関心を持ち、それをどのようにやり遂げることができたのでしょうか。また、どのようなことに感心したのでしょうか。感心したことに対して、どれだけの賞賛の言葉を贈ることができたのでしょうか。今までの行為について深く振り返り、しっかりと反省をしたいと思えます。また、成果と課題を今後に活かしていきたいものです。

困難なことが起きても日々の生活は続きます。より善く生きるということにもっと関心と感心を持って、前向きに生きていきたいと思えます。